

長はよくおっしゃるんですけども、財政再建の時代は地区に大変無理なこともお願いしたというふうにおっしゃってるんですね。では、議会とはどうだったんですかと私は申し上げたいんです。ですから、今後、市長に申し上げたいんですけども、やはり真摯に議会と話し合いをしたり、取り組みをして、ぜひ女性登用、また、その人件費とかいろんなことで削減できないか。また、まだ別な方法はないかとかっていうことを副市長、市長が真剣に対応していただきたいと思っておりますけども、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 五十嵐議員がおっしゃることは、ごもつともなところが多いと思っております。私のほうからも改めて議長を初め、議会運営委員会等々に相談させていただいて、できることはご協力いただくようお願いしていきたいと思っておりますし、あとは、最終的には議会の中での議論がなされるものというふうに思っておりますので、ぜひ私どもでもそれらの準備を進めていきたいというふうに思います。

○**12番 五十嵐智洋議員** 終わります。

金子豊美議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位7番、議席番号3番、金子豊美議員。

(3番金子豊美議員登壇)

○**3番 金子豊美議員** おはようございます。

きょう9月7日は金曜日、仏滅でございます。私ごとですが、きょうも神棚と仏壇に手を合わせてきました。仏滅、大安等々ありますが、要は本人の心、気持ちが大切だと私は思いますし、皆様方もそのように思っておられると思います。きょうは、素直な気持ちで一般質問をしたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

一昨日、ある農用地利用改善組合の会合があり、法人化された組織の若者と話をする機会がありました。話の内容を説明すると、私の一般質問の時間がなくなりますので、省略させていただきますが、そのとき感じたことは、農業に対する思い、現実を見ながら対応していく環境、将来の農業に対する期待と不安等々、農業に従事する若者の声をじかに聞くことができたことは、今後の後継者育成初め、市民の声として大切にしていかなければならないと痛感した出来事でありました。

さて、笛、太鼓のおはやしに合わせ黒獅子が舞うみこし渡御にちょうちん行列、綿あめ、焼き鳥、お好み焼き、鉄砲打ちに金魚すくい、型抜きなどの出店があらわれる8月、9月は、各地で祭礼が厳かに、そして、にぎやかに行われる時節です。

また、9月は山形県防災月間です。このたびの台風21号、昨日の北海道での地震も、想像を超える大きな爪跡を残していきました。備えあれば憂いなし、日ごろの防災に対する一人一人の心がけが命を守ることを改めて実感しながら、質問をさせていただきます。

初めに、小さな拠点の整備について。

致芳、西根、平野の3地区がコミュニティセンターに移行され、5カ月がたちました。中央、伊佐沢、豊田の3地区公民館も新年度の移行に向け、着々と準備を進められておるようです。この間、スモールスタートとして、これまでの事業を継続しながら、地域づくり計画に沿って新たな事業の準備を進めているようであります。例えば今回の補正予算にも計上されていますが、豊田地区では、支え合いの地域づくり除雪支援事業として間口除雪に取り組む準備をしているようですし、致芳地区では、県の事業と連携した長井市買い物支援推進事業として、朝市を核として買い物難民に対する事業を推進しようとしています。少しずつですが、前に進んでいる

ように感じています。また、コミュニティセンターに移行してまだ5カ月だというのに、市外からの視察が相次いでいます。これも、公民館時代の長井方式から継続して、コミュニティセンターに移行してからの長井方式に対する関心の深さと感じています。7月上旬の西日本豪雨での災害を初め、このたびの台風21号など、相次ぐ台風の襲来による被害が多く、いつこの長井市でも被災地になり得る異常気象が続き、日本はもちろん、世界中の気象がおかしくなっていると昨今感じています。特にこの夏は酷暑が続き、熱中症による死者も多く出ています。

昨年、北九州地方を襲った災害について、被災地の方の言葉にこのようなことがありました。大切なのは地域のコミュニティー、常日ごろのコミュニケーションが命を救ったと話しておられた方がいました。地区公民館のコミュニティセンター化は、特に防災拠点として、また、人と人とのコミュニケーションを深める上で大切で、必要なことと改めて感じたところです。

最初の質問ですが、コミセン化に向け、地区に地域づくり実践活動支援事業費補助金を30万円、各地区に補助し、看板の改修や備品の購入等々、準備資金として活用しております。しかしながら、現状を見てみると、大切なものが足りない職員初め、コミセン関係者、地区の方々には心配しています。それは、エアコンと洋式トイレです。以前、公民館時代に、各地区年次計画で整備を進めるとのことで見積もりをつけて計画を立てた時期もありましたが、コミセン化の話も進められていく中、その計画もとまったままになっているようです。

今回、教育委員会から地域づくり推進課に主管課が変わったわけですが、教育委員会と地域づくり推進課と連携しながら、防災拠点という観点からも計画を整理して、一刻も早くエアコンと洋式トイレを設置すべきと思います。児童センター初め、子育て関係の施設、各小学校、

中学校には設置されましたし、市役所にも、リースではありますが、取り付けられました。今度は、小さな拠点、コミュニティセンターに設置というのが市民の熱い思いだと思います。以前の一般質問と重複する部分もありますが、コミュニティセンター化が始まった現在、市長のお考えをお伺いします。

次の質問であります。間もなく冬、雪との闘いが始まります。各地区の地域づくり計画の中にも、高齢者宅を初めとする間口除雪や雪片づけ等が計画され、その活動組織をどのようにするのか検討されているようです。当然、除雪機械も必要になります。市や福祉協議会にある除雪機械を借用して行うことも可能だと思いますが、各地区や団体で利用する時期が重なることも当然だと思われまます。

そこで、例えばですが、各コミュニティセンターに除雪機械を1台配置して、小学校や児童センターと共有しながら、高齢者宅の間口除雪や雪片づけに活用すべきと思います。冬季の災害時の対応についても、施設の維持管理を含め、効果的な運用ができると思います。当然、予算措置も必要になります。市に予算があれば、市単独で行うことも可能だと思いますが、現状を考えると、大変だと思います。国では地方創生の充実をうたっているわけですが、雪が積もらないところに住んでいる方々の考えより、実際に雪と闘っている人々の意見を聞いて事業に取り組むべきと思うのは皆さんの共通の認識だと思います。雪国には、東京と違い、雪片づけというハンデがあります。地方創生を初め、国や県の事業の中で除雪機械を準備できるような制度や補助事業はないのでしょうか。雪国のハンデを克服するために必要なことだと思いますが、市長の見解をお伺いします。エアコン、洋式トイレ、そして、除雪機械の3点セットが小さな拠点、コミュニティセンターに今、必要とされている大切なものと考えますので、答弁よろし

くお願いいたします。

次に、平成30年度長井市の教育行政について質問をさせていただきます。

長井市第五次総合計画に合わせて、平成26年3月に策定された総合的な教育施策のあり方を示した長井市教育振興計画に基づき、各分野における具体的な取り組みが実施されているようです。

まず最初の質問ですが、長井市の教育の基本的な考え方の中で、生涯スポーツの分野においては、長井市野球場の整備、あやめ公園多目的運動広場の整備、長井市テニスコートの整備などに取り組むとともに、南東北インターハイ女子ソフトボール大会の開催、長井マラソンの信頼回復等に取り組んできました。今後は、市民1スポーツを楽しむ元気なまちを目指し、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進や、市民が主体的に参加する地域スポーツ環境の整備、花のまちスポーツクラブの運営支援、体育施設の充実と指定管理者制度の導入に力を入れていきますと述べておられます。また、生涯スポーツにおける重点と施策の中でも、改良された体育施設については、より効果的な運用が求められてきますし、そのほか既存の施設も含め、一体的で効率的な運用を図っていかねばなりません。そのために、平成30年度は市内スポーツ施設の管理運営について指定管理者制度を導入し、スポーツ振興と一体になった施設運営を目指していきますと述べておられます。山形県飯豊少年自然の家も指定管理者制度を導入しました。今の流れは、指定管理者制度の導入が一般的になっていますし、特に体育施設については、指定管理者制度の導入が必要だと考えます。体育施設の指定管理者制度の導入について、現在の状況と課題、今後の方向性について教育長にお聞きします。

2つ目の質問ですが、私の見落としかもしれませんが、今回の文章の中に社会教育という言葉

葉が1カ所も載っていないように思えたのですが、本市の教育における根幹である故長沼孝三先生が説かれた、長井の心を持って世界を見詰める人間の育成には社会教育という言葉も必要ではないかと思えますし、これまで社会教育の果たしてきた役割は大きいものだと感じています。また、教育委員会と社会教育団体との連携も大切なことだと思います。以前もお話したかと思いますが、かつて社会教育団体の一つである長井市子ども会育成会連絡協議会や関係団体の長井市まちづくり青少年育成市民議少年部会が中心となり、酒田市浜中地区と長井市の子供たちとの海の子と山の子の相互交流事業が実施されていました。浜中海水浴場や縄文村などでキャンプ等、さまざまな自然体験を通して生きる力を育み、子供たちだけでなく、関係者にとっても価値のある事業だったと当時評価されていました。

また、社会教育団体の一つであるスポーツ少年団の活動も大切だと思います。一時期、私もサッカースポーツ少年団の指導者として子供たちを指導させていただきましたが、スポーツ少年団の活動は、一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する。スポーツを通して青少年の心と体を育てる。スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献するという理念に基づき行われています。ちなみに、当時小学生として参加していた子供たちの何人かは、現在、市役所の職員として活躍していると思います。

この2つの事例は教育委員会と社会教育団体との連携の一例ですが、地区公民館がコミュニティセンターに移行されても、生涯学習、特に社会教育に関することは今までも話をしてきましたが、本当に長井式の教育にとって大切で欠かせないものだと私は思います。現在、教育委員会と社会教育団体とのかかわりはどのようになっているのか。今後、社会教育団体に期待することはどのようなことか、教育長にお聞きし

ます。

最後の質問になりますが、地域の観光振興について質問をさせていただきます。

7月20日の市議会全員協議会において商工観光課の報告事項として、地域連携DMOの構築について、観光局の経過、課題とニーズ、目標と目的、実施方法とスケジュールについて説明を受けました。10日後、7月30日、地域連携DMO構築に向けた講演会が開催され、講師の清水慎一先生のお話の中に次のような言葉がありました。1つ目、今の観光のキーワードは。2つ目、地域らしいプログラム、ストーリーを町歩きしながら五感で味わう。3つ目、まちやエリアを歩いて、その地域にしかない自然や歴史、文化、食、暮らしなど、地域の雰囲気や五感を多様に楽しむ観光が人気。4つ目として、そこにしかない地域の歴史、文化、地域ならではの雰囲気を体験したい。そして、5つ目でありませんが、観光客視点ではなく、生活者視点が大切。最後に、地方には、そこにしかない独自の価値がたくさんあるとの言葉でした。ここでいう五感とは、味覚、視覚、触覚、聴覚、嗅覚の5つの感覚のことです。

長井市では、最上川上流域における長井の町場景観が国の重要文化的景観として文化庁より選定されました。実際、生で見たことはないのですが、全体の景観を空から眺めることは、どなたでも感無量の心境になることと思います。今すぐは無理だとしても、将来的には東山のほうから最上川を挟んでの町場、平山、西山、ダムまで眺められる場所を整備する方法。また、現在、長井市には施設はないわけですが、南陽市や白鷹町のハンググライダーやパラグライダー施設との連携をしながら、空から長井市の景観を味わっていただく方法。東山や空から町場景観を眺めた後、長井市内で町歩きなど五感を生かしたさまざまな体験をしながら、数日滞在していただく方法など、最上川上流域における

長井の町場景観を活用した観光振興が今後必要と考えます。その誘客の中心となるのが、やまがた長井観光局だと思います。今回の補正予算にも、地域連携DMO設立準備会運営事業費補助金を計上するなど、やまがた長井観光局の果たす役割が大きく感じられます。市議会全員協議会での説明と重複するところもあると思いますが、地域連携DMOの今後の方向性を市長にお伺いします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 金子豊美議員から大きく3つご提言をいただいておりますが、私からは、小さな拠点の整備と、それから、地域の観光振興について、合計4点ほどでございますが、お答えを申し上げます。

まず最初に、小さな拠点の整備についてということで、金子議員からは、コミュニティセンターに移行して5カ月と。新年度より3地区が加わり、6地区の足並みがそろうということで、西日本豪雨などの災害がいつ長井市に起きるか不安が募る。そんなことから、コミセンは小さな拠点であると同時に、防災拠点としての役割を果たすので、施設の整備を今後どのように進めるかということのご質問、ご提言でございます。

まず最初に、ことしから、致芳と西根と平野につきましては地区公民館からコミュニティセンターとして移行いただいたわけでございますが、さらには、金子議員からおっしゃっていただきましたけども、新年度から3地区が加わって、6地区の足並みがそろうということで、大変各地区の公民館、コミュニティセンターの皆様、関係者の皆様には地域づくり計画を含め、大変ご苦労されて、ただ熱心に、やはり自分たちの地域をどうするかということをおっしゃって話し合いを進め、コミセン化に至った。これから

が大変ではございますが、私ども長井市としても、皆様と一緒に小さな拠点づくり、地域の地域づくりの拠点となる、そんな整備と一緒にやっていかなくちゃいけないという決意を申し上げたいと思います。

それでは、議員からございましたエアコンと洋式トイレの設置について、これは児童センター初め、子育て関係施設や各小・中学校は設置されましたけれども、市役所もリースであるが、取りつけられた。今後は、まだまだ不十分なコミュニティセンター、あるいは現在の地区公民館、どういうふうに整備するのかということのご質問でございます。

現在の地区公民館、コミュニティセンターへのエアコンの設置状況については、事務室や一部の会議室への設置は既に済んでおりますが、全館で使用できる状況では現在ございません。議員おっしゃるとおりでございます。

洋式トイレの設置状況については、致芳のコミセンの1カ所は、女性用トイレのみの設置がありますが、それ以外の施設については、1階のトイレに関して洋式トイレが設置されている状況でございます。

また、防災拠点としての機能を考慮いたしますと、災害対策基本法第86条の6では、避難所に滞在する被災者の生活環境の整備に必要な措置を講ずるよう努めなければならないとされておりまして、内閣府の防災担当が発行する避難所における良好な生活環境の確保に向けた取り組み指針においても、生活環境改善対策の一環として冷暖房機器の整備が上げられているところでございます。各地区の小さな拠点となるコミュニティセンターについては、防災の拠点としても機能を満たすために、早い段階でエアコン及び洋式トイレを完備していくよう進めたいと考えておりますので、設置状況や費用等について精査を行い、よりよい環境が確保できるように対応してまいります。

また、今年度はタウンミーティングで市民の皆さんと意見交換をさせていただいておりますが、西根地区と平野地区からは、地区体育館の整備について要望をいただいているところです。長井市公共施設等整備計画では、その2つの体育館は建設後50年以上が経過し、老朽化が進み、耐震性も確保されていないことから、どのようにするか検討する。これは、廃止を検討するというので今までの経過としてございましたけれども、今後はコミュニティセンターを小さな拠点として整備し、強化していく中で、この体育館機能をぜひ小さな拠点として整備することによって、あるいはコミュニティセンターに防災機能を持たせるということをあわせて目標として、地方創生関係の交付金を活用できないか。その辺を検討していきたいと思っております。

もうできれば来年あたりから、私どもとしては、まず、内部では十分な調整を図っておりますが、防災センターとして、市役所はもちろんですけれども、各地区の公民館、コミセンも避難所になっておりますので、ですから、そういった意味で避難所としての機能が備わっているかということ、これはまだまだ不十分でございます。東日本大震災以降、まずは、いざというときの緊急の防災無線の設備と、それから、発電機やらさまざまな備蓄の準備等々、そういう資機材ですね、それを整備してるにすぎないと思っております。実際、今回の西日本の7月の豪雨やら、あるいは今回の台風の被害、また地震等などがあつた場合、機能しないというふうに思っておりますので、そこを防災センターとして、いわゆる国の緊防債って、緊急防災減災事業債ですか、これをどこまで活用できるかということと、あと小さな拠点ということで、地域防災の拠点でもあり、地域づくりの拠点であり、なおかつ地域福祉の拠点でもあるということから、どこまでその小さな拠点を整備できるか。なおかつ、国の地方創生の交付金

等々で来年を目標に申請をしていきたいと考えておりますので、その中で一番いいのは、総合的に整備できることが一番いい。確かにエアコンと、エアコンというのはコミセンとか地区の公民館ですと、ちょっと大きいエアコンで、多分全てのエアコンを設置すると、各公民館で数百万円、それと、洋式トイレも、これ全て洋式化するということになりますと、これも数百万円、合わせて多分1カ所の公民館、コミセンで500万円から1,000万円はかかるだろう。6カ所があるわけですから、6,000万円ですね。ところが、これらについては財政的に言いますと、どうしても一般財源になりがちです、起債がなかなかできなかつたりしますので。そうすると、公共施設整備で今後、残り8年間で数多くのメニューをこなさなければいけないといった場合の一般財源の不足が考えられますので、一番いいのは、いわゆる地方創生と、それから、いわゆる緊急の防災のための起債ですね、緊防債、これを活用してどこまでできるかということを早急に検討していきたいと思っております。

続きまして、2番目の各コミュニティセンターに除雪機械1台を設置して、小学校や児童センターと共有しながら、高齢者等の間口除雪や雪片づけに活用すべきと思いますし、冬季の災害時の対応についても、施設の維持管理を含め、効果的な運用ができるのではないかとのご提言でございます。

これは金子議員の質問中にもありましたように、今年度中に豊田地区にチーム豊田という名称でこの組織化が図られまして、要援護高齢者世帯、除雪が困難な一般世帯等を対象とした支え合いの地域づくり除雪支援事業を市からの委託事業として実施する予定でございます。この事業では、市が購入し、長井市社会福祉協議会へ貸与している大型除雪機を使用するほか、新たに間口除雪で使用する15馬力程度の除雪機を1台購入する予定でございます。事業の開始に

当たっては、福祉あんしん課担当者が各公民館、コミュニティセンターを訪問し、既に述べました支え合いの地域づくり除雪支援事業の概要を説明してまいりました。その際、趣旨に賛同していただいた豊田地区を先導的な取り組みとして支援し、今後、これをモデルとして、各地区でも取り組みしやすいよう道筋をつけていきたいと考えているところです。金子議員がおっしゃったように、各公民館、コミュニティセンターへの除雪機配置は、冬季の災害対応、施設の維持管理についても有効な部分があると考えられますので、これらについても引き続き検討を行ってまいりたいと思います。

最後に、この項の最後でございますが、雪国には、東京と違い、雪片づけというハンデがある。地方創生を初め、国、県の事業の中で除雪機械を準備できるような制度や補助事業はないのか。雪国のハンデを克服するために必要なことだと思っておりますというご提言でございますが、これは2つ目の質問と重複する部分がございますが、平成30年度中に、先ほど申し上げました、実施する支え合いの地域づくり除雪支援事業では新たに15馬力程度の除雪機を購入する予定ですが、この除雪機の購入には、山形県市町村総合交付金のうち、総合的な雪対策推進事業の交付金充当を予定しているところでございます。

なお、こちらは、これは先行事例がないものですから、これ何とも言えないんですけども、小さな拠点として防災機能と地域福祉と、また、地域づくりの拠点という論理立て、組み立てをして、どのようにしてこの小さな拠点として地域内のいわゆる移住定住を図り、なおかつ、皆さんが安心・安全に暮らせる、また、支え合いの地域づくりを行っていくかという事業の組み立てをすると、地方創生交付金はいただけの思ってるんですね。そうしますと、一部ハードのところでは防災センター機能ということで緊防債というのを使わせていただくと、これは7割

の補助があるので、非常に有利なんですね。それ以外のところは除雪機械も、あるいは、防災センターとしてエアコンとかトイレの洋式化とかは当然ですし、あとは避難するスペースとして体育館的なホールも必要ですから、その辺の組み立てをすることによって、各地区のコミセンがいろんな事業を組んだ部分についても、何とか小さな拠点づくりとして事業を認めていただけるように組み立ててまいりたい。そうしますと、これら全てをトータル的に整備できるのかなと思っておりまして、これらについて取り組み、チャレンジしてまいりたいと思いますので、引き続きご指導いただければと思います。

最後、私の答弁の最後になりますけれども、3点目の地域の観光振興についてでございます。議員からは、最上川上流域における長井の町場景観を活用した観光振興が今後必要ではないか。やまがた長井観光局の果たす役割が大きく、地域連携DMOに対する考えはどうだということでのご質問をいただきました。

議員からもありましたように、清水慎一先生は、もう既に平成24年からでございますので、7年目でしょうか。ずっとご指導をいただいております。観光振興計画をつくって、なおかつ、その実践するエンジンとしてやまがた長井観光局という旅行会社を、DMOの卵をつくるのもご指導いただいて、今度は長井を中心として、2市2町で広域で旅行会社をつくっていく。名称がどういう名称になるかですが、今のところはやまがた花の観光局とかフラワー観光局とか、あとはアルカディア観光局とかいろいろあるようでございますが、そんなことで連携してやっていくという考え方で、これに通ずる考え方は、今までの日本の観光は一部の大手のホテルだったり、温泉旅館であったり、あるいはお土産屋さんであったり、なかなか地域全体を潤すってことは少なかったんじゃないかと。それを私どもとしては、長井は観光で主たる生業にさ

れてる方って少ないと思ってますんで、今後、観光を一つの地域振興の柱とする場合に、このDMOをつくって、農家、商店街、あるいはさまざまな食品加工とか、さまざまな地域の人たちに恩恵があるように、そして、お金が地元へ落ちて地域経済が潤うような、そんな取り組みをしなきゃいけないということでDMOを、大変苦労しましたけども、取り組んできたところです。

清水先生のご講演に参加いただいたことに対して、まずお礼を申し上げなきゃいけないんですが、ご存じのとおり、清水先生はJR東日本仙台支社長を初め、JT Bの常務、あるいは立教大学の観光学部の教授、現在は大正大学の特任教授として頑張っておられますが、清水先生のちょっと縁を感じるのには、東大の卒論で、廃止される長井線を卒論として書いた方だそうです。ですから、非常に長井線については思い入れがあって、ご自身は長野ご出身で、非常にこの長井と観光も、地域の風景も似てる場所なんだということで、非常にいろいろなアドバイスをいただいております。今回の講演でも、これまでの観光名所やイベント観光は地域が稼ぐことに結びついていない。これからの観光は、町歩きなどでその地域にしかないものを五感で味わうことが求められているとご指導いただいたと聞いております。この五感については、議員からもございました。

長井市では、DMOの組織であるやまがた長井観光局を2年前に立ち上げ、これまで地域を楽しみ、もうかる観光づくりの開発に取り組んでまいりました。議員からご提案いただきました最上川上流域における長井の町場景観は、まさにこの地域特有の生活文化景観であり、すばらしい長井が誇る地域資源だと思っております。こういった長井市特有の資源と市民の皆様の営みを上手につないで、おいしい、楽しい、美しいを求めていく観光客に心地よくお金を使って

いただくようなことをするのが観光局の役目でございます。このような特有の地域資源や文化を生かした取り組みは、市やまちが単体で行うよりも、DMOの手法で地域資源と地域の人々を広域でつないだ観光商品のほうが、より充実した魅力あるものができるため、周辺の市、まちと地域連携DMOの組織づくりを具体的に詰めているところでございます。地域連携DMOが稼働することによりまして、地域が目指している滞在、体験、交流型観光が定着していくものと考えており、長井市を含め、この地域の観光ポテンシャルが向上し、観光の目的地となっていくよう期待してるところです。観光客をきちんと受け入れ、もてなす仕組みと、それを行う人材をつくるのが地域連携DMOに求められることと考えています。

また、将来の観光を考えると、人口とともに、中高年の国内旅行はやがて減少してきますから、外国人旅行者を積極的に受け入れることが非常に重要になってきております。しっかりとインバウンドに対応して、積極的に伸ばしていきたいと考えております。

議員からご提案ありました長井の町場景観を高いところから眺められるということは非常に魅力的なことだと思いますので、今後、さまざまな機会に検討してみたいと思いますが、やはり東山の、一番は外田山が一番手っ取り早く、今、登れるところということですが、今後どうするかですね。やっぱり眺めできるエリア、場所っていうのは長井はないので、やっぱりスキー場のところの道照寺平のところの熊野山についてはちょっと遠過ぎるので、最上川も見えるという町場景観は東山なのかなと考えているところです。

なお、やはり町場景観ということで、眺めする場も必要なんですけども、一番最初に手をつけなきゃいけないのが町場景観の柱である十日町、大町周辺ですね。それから、あら町。この

2カ所についての景観をやっぱり建物の所有者の皆様からご協力いただいて、整備しなきゃいけない。この整備手法について考えていくということが重要だと思いますし、きのうの一般質問で文化芸術のところでも申し上げましたけれども、一番は、ただ見るだけ、食べるだけではなくて、地元の人たちとか地元の文化とか、歴史とか芸能とか芸術とか、そういったものに触れ合うということが、特に日本人もそうですが、外国の旅行のお客様、インバウンドの皆様には魅力的なものに映るはずなので、そこをどうするかということで、文教の杜周辺を文化芸術のエリアとしていろいろ磨き上げていくことが非常に重要だと思っているところでございます。ぜひ引き続きご指導いただければと思います。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 私のほうには、平成30年度長井市の教育行政についてということで、大きく2つご質問をいただきました。

まず、体育施設の指定管理者制度の導入についての現状と課題、それから、今後の方向性はどうということについてお答えを申し上げたいというふうに思います。

最初にですが、当市の体育施設におけます指定管理者制度を導入しているところは、現在の交流センターふらりのところでございますけれども、長井の市民体育館、それから、長井市テニスコート、それから、長井市パークゴルフ場の3施設というふうになってございます。少しずつではありますが、指定管理者制度の導入を進めているところでございます。

それ以外の施設につきましても、現在導入を検討しておりますので、その現状について、説明を申し上げたいというふうに思います。

これまで体育施設における指定管理者制度の導入につきまして、市議会、あるいはスポーツ推進審議会、それから、長井市体育協会等で課

題として上げられてございます。体育協会に加盟する各種協会との調整や総合型地域スポーツクラブの創設も含めまして、スポーツクラブが指定管理者制度の受託団体として事業展開する旨の検討も行われてきた経緯がございます。現在でございますけれども、長井市の体育協会、これを中心としながら、関係団体、例えば花のまちスポーツクラブ、長井市水泳連盟、NPO法人さわやかサービスなどの代表者によりまして意見交換会を開催し、具体的な検討に入っているところでございます。この意見交換会では、ニーズが多様化する中で、公の施設で実施する事業に民間の能力を生かすとともに、住民サービスの向上と市民と一体となったスポーツの振興を図り、市民1人1スポーツに寄与することを目的に開催しているところでございます。協議の内容としましては、準備委員会や企画会議の立ち上げ、現状と課題の整理、受託団体の法人化、それから、想定する施設の選定、移行に向けたスケジュールなどでございます。

指定管理を想定している対象施設は、置賜生涯学習プラザ、陸上競技場、多目的運動広場、あやめ公園運動広場、長井TBC球場、市の野球場でございますけれども、それから、あやめ公園テニスコートなどでございます。金子議員からありましたとおり、体育施設における指定管理者制度の導入は必要というふうに考えているところでございまして、対象施設の中には老朽化による改修が必要な施設などもあり、そのような施設も含めて運営管理できるよう、検討している項目を十分に精査し、経費の節減、あるいは利用者へのサービスの向上など、適切かつ安定的な運営が図られるよう検討しながら、次年度、平成31年度からの導入を目指して、現在進めているところでございます。

続きまして、2点目でございますけれども、現在、教育委員会と社会教育団体とのかかわりはどのようになっているのか。それから、今後、

社会教育団体に期待することはどのようなことかというご質問にお答えを申し上げたいというふうに思います。

近年は、新たな社会的課題とか、それから、地域の課題が非常に増大しておりまして、その課題解決のための学習の必要性などから、地域住民の行う学習活動、これが広範多岐にわたって行われるようになっておりまして、議員からご指摘ありましたとおり、社会教育の役割は今後ますます重要になるものというふうに考えてございます。

本市におきまして、社会教育施設であります公民館、ここでは生涯学習や地域住民の活動の拠点、それから、個人の生きがいきづくり事業から、地域社会に目を向け、地域課題の解決と地域づくりを目指す人材育成の拠点というふうになっておりまして、社会教育の大きな受け皿として機能してきているところはお案内のとおりでございます。そして、この重要な機能につきましては、コミュニティセンターに移行後も全く変わるものではない。むしろ、より重要になってくるものというふうに考えているところでございます。

教育委員会では、学校教育と連携、協働した社会教育の取り組みも進めているところでございます。例えば、従来、学校支援地域本部というふうに申しておったんですが、今年度からは地域を前に出しまして、地域学校協働本部というふうに名称をちょっと変更しておりますけれども、その地域学校協働本部の取り組みや、それから、放課後子ども教室などを行っておりまして、大きな成果が上げられているところでございます。

それから、平成14年度にスタートしました土曜らんどにつきましては、地域の教育力を生かしながら、他の地域に先んじてこれに取り組んでいるものでございます。これらも広く社会教育と言えるかというふうに思います。

それ以外の領域におきましても、議員からご指摘ありました長井市子ども会育成会連絡協議会、それから、スポーツ少年団、長井市まちづくり青少年育成市民会議、青年団体連絡協議会、それから、自治公民館連絡協議会、青少年育成推進委員会等々などの社会教育関係団体は、市の教育委員会で事務局を担いながら、連携、そして、協働の上で事業推進を図っているところでございます。

今後、社会教育団体に期待することということでございますけれども、ちょっと私的な解釈っていいですか、考え方になりますか、さまざまな社会教育団体があり、対象年代も異なるわけでございますけれども、年齢にかかわらず、基本的に人はさまざまな学びや活動を通して、よりよく生きたい、自己実現をしたいというふうに思っていると私は考えます。小さい子には、学校教育では難しい豊かな体験活動をしていただきたいし、例えばキャンプ、あるいは登山、川遊びなどの自然体験はもとより、地域の高齢者の方を初め、さまざまな年齢層の方々と直接触れ合いながら、豊かな文化体験や異年齢交流体験の場を提供していきたいというふうに個人的には思っているところでございます。

また、青年、中高年、あるいは高齢者を対象とした社会教育団体にあつては、それぞれの学びたいという欲求に応えるとともに、学びを通して地域の人々の交流を活発にし、人々が太いきずなど連帯感で結ばれ、生き生きとした地域コミュニティに高まっていくこと、このことを最も期待しているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** 6つの質問に答えていただいてどうもありがとうございます。

初めに、教育長のほうにお聞きしたいと思いますが、先ほど、社会教育団体との関係の中に女性団体連絡協議会が入ってるのでしょうか。そこを確認させてください。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** もちろん入ってございます。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** 女性の団体、それから、青少年の団体、さまざまないろんな団体あるわけですが、教育長の答弁にもありましたように、それぞれの年代に合った社会教育の実践というのがあると思います。ですから、教育長が述べられたとおり、今後、教育団体に期待することについては、私も同感であります。ただ、そういった中で、市のほうでいろいろ考えてる教育目標等を実践する上で、さまざまな事業をする中で、こういったいろんな団体との連携事業というか、そういったものも必要ではないかというふうに思うんですが、その辺については今後どのようにお考えであるか、お聞きをします。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 金子議員おっしゃるとおりだというふうに思います。現在、先ほど申し上げた社会教育関係団体につきましては、余りにも多過ぎまして、ちょっとはしりましたので、幾つか漏れてるところがあるかというふうに思いますが、教育委員会としましては、当然事務局機能を担っておりますので、そんな中で、さまざまな関係団体に長井の教育理念であります長井の心の実現に向けまして、さまざま連絡調整等々、それをしっかり行っていきたいというふうに考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** ありがとうございます。

それから、市長のほうにお伺いしたいと思います。先ほど、小さな拠点の整備についていろいろ、お金のかかる話等々、答弁いただいたわけですけども、ことしの夏なんですけど、ある公民館のというか、コミセンの場合ですが、例年に比べると人が少なかった、公民館に来る人が、来館者が少なかったというようなお話をある館長さんからいただいたところであります。何で

やってお聞きする前に、わかんべというふうなことで、例の異常気象で、公民館さ行っても冷房ないし、一部あるわけですけども、それよりやっぱりほかさ行ったほうが良いというような形があったという現状あったわけなんです、そういった中で、地域づくり計画の中にも、サロンとかカフェとか、さまざまなことをこれから実践していきたいという考えを持って、各地区で方々もおられますし、そういった部分で、やはりエアコンの整備等については来年以降検討していきたいという答弁あったわけですが、その辺はやっぱり急務を要するというふうなことで、ぜひ早急に取り組んでいただきたいと思いますが、もう一度その辺、お願い方々、答弁いただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 議員おっしゃるように、エアコンと洋式トイレっていうのは、今まで各教育施設を中心に進めてきたんですけども、ちょっと私も認識不足で、そんなに地区公民館のほうで入ってる部屋が少なかったというのはちょっと意外でした。来年、できれば、さっき言いましたように、全部のところ、もう一回全ての部屋に入れるということになりますと、多分数百万円、500万円から1,000万円単位と。これを6カ所全部やるというと、これなかなか補助を使わないと難しい。やっぱり少しでも補助を使いたいんですね。ですから、ちょっとこれ意外でしたので、教育委員会のほうとも話をしながら、大至急検討して、どういうふうに整備するかを決定して、来年は涼しいコミセンに行こうと、合い言葉になっていただくように頑張りたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** 公民館に入ってる冷房についても、中古とか、そういった形でいろいろ苦労しながら入れたところもあるものですから、今後ご検討、ご協議いただければというふうに

思ったところがございます。よろしくお願いいたします。

最後の質問になりますが、先ほど、DMOの関係で、市長のほうから、長井市、白鷹町含めて、周りと一緒に観光局を新しくつくるようなお話あったんですが、私の勘違いだったら申しわけありませんけども、今までのやまがた長井観光局はそのまま今までの事業を継続してやっていく。そのほかに連携事業もやっていくという、そういう2つの組織にするということか。それとも、地域連携DMO一本でやっていくのか。その辺お聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

やまがた長井観光局は発展的解散ということで、2市2町で新たにたつていく。ただし、かなり温度差があつて、皆さん、わからないんですね、旅行会社って何だと、行政がメインですから。あと、観光協会も本格的な営業ってしたことございませんので、まずは、長井だけではなくて、2市2町の旅行商品をつくる。長井だけですと、限られてくるわけですけども、それが例えば2泊3日で2市2町をいろんな楽しみ方をするような商品づくりをして、それを大手の旅行会社と連携したり、あるいは単独で営業かけて売ったり、または、観光ポータルサイトで来ていただいて、申し込みしてもらおうとか、そんなことなどを行っていきたくて考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** わかりました。今後のDMO関係、地域DMOの活躍というか、期待したいところもあるわけですが、私たちも議員の立場でもありますので、今後の行く末を見ながら、いろいろ勉強させていただきたいと思えます。

これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時56分 休憩

午後1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

小関秀一議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位8番、議席番号11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 午前中からの雨も一段落で、あした、土曜日は小学校、全部ではないというふうに聞いてますが、平野なり、小学校の運動会なんかも予定されております。暑い、そして、雨が欲しいなという7月、8月の天気とは打って変わった天気が続いております。

ことは、私も百姓してから初めてくらいの暑さ、そして、野川水系については、水不足が、番水にはなったものの、不足はしなかったわけですが、白川水系、私も向こうのほうの水系の田んぼをつくっておるわけですが、場所によってはポンプ2台を回し、あと、うちからも、ひどいところについてはタンクにトラックで水をくんで、延べで4日ぐらい運んだような本当に忘れられない高温と少雨の夏でした。大分稲穂も垂れ、黄ばんできましたし、実が入りつつあります。米の収穫については、出荷の説明会やら、きのうは長井地区では農協関係の座談会等の中で、昨年度の仮払い精算金と、例年ですと、9月15日ごろ、刈り取りの前に今年度の概算金

の発表があるということではありますが、少し去年、おとしあたりから米価なり、転作等のいわゆる取り組みについても国の政策も変わったということもありますけれども、農家の考え方も少し変わってきて、転作の取り組みについては大きく、大豆等の畑作物と飼料米が非常に多くなったということがあります。飼料米については、目標の数量、収量を上げると米より有利だという部分もあるやに聞いておりますので、そうした面では、いわゆる現在作付されている食用等の品種ではなくて、多収品種が開発され、作付がされているというふうに聞いております。13俵、15俵というふうな収量がないと、国でいう有利な飼料作物、転作の収入にはならないということもありますので、そうしたかかわりの中では、品種のあり方については大分さま変わりをしているなというふうに感じております。

あともう1点、食べ物に関して、無理やり関連づけますけれども、5日の日、私と、市長もいらっしゃったわけですが、南中の2年生の修学旅行で、だがしや楽校が蒲田駅西口広場で行われまして、議長の代理という立場で応援をさせていただきました。長井の特産物、特に食べ物を中心に、生徒さんが長井のPRを兼ねて頑張っている様子を見させていただいたわけですが、2時間の予定時間の中で、時節柄エダマメとか丸ナス等の野菜については5分、10分でもう全部完売というふうなこと。あと、加工品が多くあったわけですが、加工品についても1時間もかかんねでほとんど完売というふうなことで、毎年行っている事業なので、地元の人も応援をしてくださっているおかげもあって、にぎわいがあったなというふうに思っています。11日は北中が梅屋敷の商店街で事業を行うということでもありますので、応援をしたいなというふうに思います。

食べ物等については、地元、地産地消とか、後継者を元気づけるような施策とか、国、県、